

○議長（河野） 15 番、福家利智子君。

○15 番（福家利） はい、議長。15 番、福家利智子。

○議長（河野） 福家君。

○15 番（福家利） はい。

○15 番（福家利） 通告に従い、順次一般質問させていただきます。

1 点目、「異次元の少子化対策について」。2022 年日本の出生者数は、初の 80 万人割れで 77 万 747 人。ピークだった頃に比べ 3 分の 1 以下まで減少しています。さらに少子化に伴い人口減少が加速しており、日本は 50 年後に人口の 3 分の 1 を失うと懸念されています。急速な少子化・人口減少を抑えなければ、国際社会での日本経済発展に大きな影響を及ぼすと言われていています。

人口減少は、生産力の低下や消費市場の規模縮小だけでなく、深刻な担い手不足、また、地域文化やコミュニティ維持が困難になることなど、地域の将来に大きな影響を与えます。

さて、国は異次元の少子化対策を掲げ、「こども未来戦略方針」を示したところです。それによれば、児童手当の拡充、出産の支援、育児休業取得の促進、保育サービスの充実を柱として 2024 年度から 3 年間で、3 兆 5 0 0 0 億円規模の予算になると言われています。

今、核家族化の進行や地域コミュニティの希薄化等により孤立化した子育てを防ぐため 0 歳から 2 歳児の未就園児に対し親の就労条件に関わらず時間単位等で保育所などを利用できる「こども誰でも通園制度（仮称）」を 2026 年より実施しようとしています。子育て世帯が確実につながることで、悩みなどを気軽に相談して子どもを安心して生み育てることができる社会づくりにしっかり取組んでいかななくてはなりません。少子化対策は待ったなしです。

町長の重点施策の中で、「こども園保育士配置基準、4 歳、5 歳児 30 対 1 から 25 対 1 に引き下げを行う。」「さらに 3 歳児以上すべての給食費主食費を無償化する。」子どもの育ちや権利をしっかり守っていく一歩進めた支援策です。

若い世代の誰もが結婚や子どもを産み育てたいとの希望が叶えられるよう、将来に明るい希望をもつ「こどもまんなかまちづくり」を加速化するために、これからどのような対策を取組むか町長にお伺いします。

○議長（河野） 前田町長。

○町長（前田） はい、議長。

○議長（河野） 町長。

○町長（前田） はい。

○町長（前田） ご質問の「異次元の少子化対策について」お答えをいたします。

施政方針でも申し上げましたが、昨年 12 月に閣議決定されました「こども未来戦略」において、こども園の職員配置基準が 4・5 歳児について、30 対 1 から 25 対 1 に改善されることから、本町においても同様に改善し、より安心して子どもを預けられる

体制を整えてまいります。

また、現在こども園におきまして実施しております、副食費の給食物価上昇分、これを補助を継続しつつ、3歳以上のすべての園児が負担している主食費、この無償化を実施いたします。

2026年度からは、全ての子育て世帯を対象とした保育の拡充として「こども誰でも通園制度」これが全国の自治体で実施されるようになります。本町におきましては、保護者の就労の形態を問わない一時保育を現在もこども園で実施しており、町内に4カ所ある子育て支援拠点施設では、就学前の子どもと保護者が気軽に立ち寄り、自由に遊び、子育て支援コーディネーターが、子育ての悩みや不安を相談に応じ、保護者の安心感につながっております。また、今年度から「在宅育児応援金」を町独自に創設し、0歳から就学前の子どもを在宅で育児するすべての世帯に対して、子ども一人に対し月1万円を支給し、こども園等に入園し施設利用をしている子どもと同様に子育てを応援をしておるところであります。

現在、「綾川町第3期子ども・子育て支援事業計画」この策定のためのアンケート調査を実施しており、子ども・子育てに関する保護者の状況や今後の希望などをお伺いしており、これからの町の子育て施策にも反映させてまいります。

妊娠期から子育て期の包括的な切れ目のない支援を全ての子どもに、健やかで安全・安心に成長できる環境を提供してまいりたい、そのように考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（河野）再質問はございませんか。

○15番（福家利）はい、議長。再質問。

○議長（河野）福家君。

○15番（福家利）はい。

○15番（福家利）答弁ありがとうございました。

保育士の配置基準のところでございますが、4歳、5歳、30対1から25対1に引き下げるといふ、この時期ですね、人間形成の大事な時期だと思う反面ですね、3歳未満児の子どもたちが、災害が起きたとき、ちょっと災害の関係だったら私総務なので、あまり詳しい話はできないんですが、本当にですね、3歳未満児の保育士の配置基準をですね、ここをですね、もう少し町長、一歩踏み出した施策をしていただくような考えはないでしょうか。

○子育て支援課長（杉山）はい、議長。

○議長（河野）杉山子育て支援課長。

○子育て支援課長（杉山）ただいまの福家利智子議員の再質問にお答えいたします。

保育士の配置基準が来年度から、4、5歳児は25対1へ改善されるということに伴いまして、3歳未満児の配置基準についても、改善を考えてはいないのかというご質問かと思っております。

国のこども未来戦略におきましても、2025年度以降、1歳児について、保育人材の

確保等の関連する施策との関係も踏まえつつ、早期な段階で、6対1から5対1への改善を進めるとありますので、これに伴いまして、町の方でも、改善するというようなことを考えております。ちっちゃい子どもの対応につきましても、本当に重要なところで、保育士の方も、力を入れてやっておりますが、事故がないように対応してまいりたいと思っております。

よろしいでしょうか。

○議長（河野） 再々質問はございませんか。

○15番（福家利） 議長、再々質問。

○議長（河野） 福家君。

○15番（福家利） はい。

○15番（福家利） ありがとうございます。前向きな検討。国の施策の中でですね、6人から5人ということになるんだけど、本当にですね、これからの子ども達、未来ある子ども達のためにですね、投資をしていただくということは大事なことだと思います。

さらにですね、今は、当面の子育ての世帯に政策的に重点的に置かれて、いろんなその子どもを持つ世帯への施策が力点を置いていると思っております。

そういった中で、切れ目のない支援対策をしていくという町長の中でですね、その軸になる若い人達の労働者の労働条件の改善が、実質賃金が上がらない限りですね、この少子化対策っていうのは本当にこのなかなか難しいところもあると思います。

そういった中で、本当にこれから若い世代の、若い労働者の人達にどうこの綾川町に住んでもらって、働く生産人口を増やして、もっともっとですね、未来の希望を持てるような施策を町長が切り出せるのか、アンケートの結果もあると思いますが、町長の思いをお聞かせいただきたいと思っております。

○議長（河野） 前田町長。

○町長（前田） はい。

○議長（河野） 町長。

○町長（前田） はい。

○町長（前田） 広範囲に及ぶ話なんですね。これはいろんな各課にまたがって、総合戦略というのをやっておりますけど、これは人口減少対策っていうのが、一番根本におるかと思っております。それに伴う、いろんな計画を立ててですね、町のですね、施策を実行していくということになっております。今年、まち・ひと・しごと創生総合戦略、今年策定の年になっております。この中でですね、そういう町のですね、雇用の促進とかいろんな面、そういう面はですね、しっかりと計画に表していきたいなと、そのように思っておりますので。

子育てだけに特化した、ちょっとね、そうでなくしてね、全体的な話としてね、町のあり方っていうのは、やっぱり、総合戦略で、表していきたいなあと、そのように思っています。よろしく申し上げます。以上です。

○議長（河野） 福家君の1問目の質問が終わり、2問目の質問を許します。

○15番（福家利）はい、議長。

○議長（河野）福家君。

○15番（福家利）はい、2点目、「町道の維持及び整備について」。

町道は、町内の地域・まちの骨格をつくり環境・景観を形成し日々の暮らしや経済活動等を支える町民の生活にとって重要な役割を担っています。本町では、老朽化が進んだ道路舗装の修繕計画を実施するため、昨年秋に路面性状調査を実施しました。これから10年、20年先を見据えた活気あるまちづくりのために道路修繕計画はどのように取り組むのか以下の3点町長にお伺いします。

1、優先順位の設定はどのように

2、データ等の蓄積・利用は

3、道路パトロール業務は

以上、よろしくお願ひします。

○議長（河野）前田町長。

○町長（前田）はい、議長。

○議長（河野）町長。

○町長（前田）はい、議長。

○町長（前田）2点目の「町道の維持及び整備について」お答えをいたします。

路面性状調査につきましては、町道の路面における「ひび割れ」「わだち掘れ」「平坦性」これらを測定し、これら3つの指標から「維持管理指標」を算出することで、舗装修繕の必要性を判断する材料とするために、実施をしたものでございます。

まず1点目の「優先順位の設定方法」についてであります。調査結果はあくまで判断材料の一つでありまして、車線数などの「路線特性」、周辺公共施設の立地状況などにより「地域性」、また、緊急輸送路の指定の有無などによる「防災性」など、これらを総合的に考慮した上で、判断をしております。

次に2点目の「データ等の蓄積や利用」についてであります。算出した「維持管理指標」を、修繕の必要性の高いものから4つのランクに分けて、ランクごとに色分けして路面状況を市内のGISシステムで確認できるようにするとともに、修繕履歴なども入力できるように整備を進めております。これを活用することで効率的、効果的な舗装修繕につなげてまいります。

3点目の「道路パトロール業務」についてであります。道路パトロールは、町道における予防保全の強化のために、令和元年度から実施をしております。路面性状調査と重複する部分もありますが、基本的には、路面性状調査が路面の劣化診断に特化しているのに対しまして、パトロールにつきましては局部的な補修の必要性、また路面以外も含む道路状況、これらの把握を目的としているものでありまして、業務の質の向上を図りつつ、これらは継続してまいりたいと考えております。

道路につきましては住民の生活に不可欠なインフラ資産の一つでありますことから、その安全性や快適性確保のために、地域の方々のご協力も得ながら、引き続き良好な道

路環境の維持に努めてまいりたい、そのように考えております。

以上、答弁といたします。

○議長（河野）再質問はございませんか。

○15番（福家利）議長、再質問。

○議長（河野）福家君。

○15番（福家利）はい。

○15番（福家利）答弁ありがとうございました。

限られた予算の中でですね、効率的に計画的にやっていくというのはもちろんそうではありますが、その5カ年の計画という中身も含めてですね、点検サイクルのこの準備をしながらですね、インフラの長寿命化を計画をしていくというのは、その中には入っていると思いますが、道路のひび割れとか、いろんなことがあるんだけど、今すごく白線ですね、外側線、本当にもうこれ消えています。そういった部分もですね、早めに安心安全な道路にするためには、早急にですね、そのところをやっていく順位というものもあるのでしょうか。

お伺いいたします。

○議長（河野）田岡建設課長。

○建設課長（田岡）はい、議長。

○議長（河野）田岡君。

○建設課長（田岡）福家議員の再質問の方にお答えをさせていただければと思います。

外側線の引き直しということでございまして、こちらにつきましては、すでに消えているところというのは、住民の皆さんからのご指摘とか、議員各位の皆様方からのご指摘などもございまして、ある程度の把握はしてございます。

ただ、その延長の方が非常に長くなっておりまして、すべてを一気にやってしまうといったようなことは、予算的にも非常に難しいということもございまして、交通安全施設整備費、こちらの予算の中でですね、計画的に実施をしてみたいなというふうに考えておりますので、ご理解をいただければと思います。以上です。

○議長（河野）再々質問はございませんか。

○15番（福家利）ありません。

○議長（河野）はい。

○15番（福家利）ありがとうございました。

○議長（河野）以上で、福家君の一般質問を終わります。